

One たった1つの自分の母校

校長 伊藤 裕

“安全な登下校が何より大事”

すっかり秋が深まり日が暮れるのも早くなりました。そんな中、職員会議でも民生委員の会議でも、一中生の特に下校時の自転車の様子を心配する声が多く聞かれました。ちょうどテレビ番組で「薄暮時の交通事故」について特集していたので、ここで取り上げてみましょう。

「ドライバーは歩行者(自転車)がどのくらい見えているのか？」

次の表は、歩行者の衣服の色とドライバーが認識できる距離、そして車が止まるまでの距離と速度の関係について表したものです。



一中と中部小を結んだ道路（県道29号尾花沢関山線）は制限速度40キロですが、私が見たところ、制限速度を超過して走行する車は決して少なくありません。

(同じ車を運転する大人として本当に申し訳ない…)

仮に時速50キロで走行しているとするれば、ドライバーが歩行者を発見して止まるまで32m必要です。一中生の服装を思い浮かべてみると、黒や紺のウィンドブレーカー類がとても多いですね。これではドライバーが歩行者を見つけても間に合いません。かなり危険だということがわかんと思います。

「安全のためになるべく明るい服装を」と思いますが、簡単に買い替えられないし、好みなどもあっていろいろ難しいかもしれません。しかし、反射材を身につけることで、表にある通り何と視認距離がグンと長くなるのです。

夜間の車から歩行者が見える距離（ヘッドライト下向きで測定）



決して高価なものではなく、¥100 ショップでもいろんな種類がありますので、これなら簡単に手に入ります。アームバンドやアンクルバンド型のものをカバンに入れておいて、帰りにパッと身につけることもできそうですね。

『安全な登下校が何より大事』いろんなものを賢く利用して、登下校の安全を確保してください。

山梨県警HPより

